

国語と総合的な学習の時間の協力

「非連続型テキスト」を読み解くための試み（五年）

新しい指導を考える会

1 これまでに欠けているものは何か

PISAでは、「読解力」を「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発展させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」だと規定し、これらを支える三つの側面として、①情報の取り出し、②解釈、③熟考・評価を掲げている。

これは「読み取って得た知識や情報を咀嚼し、一度自分のものとした上で再構成する力」と言い換えられる。

確かに、これまで言われてきた「読解力」とは内容的に違う部分があるものの、その先にある「外部に発信すること」、すなわち「書くこと」や「話すこと・聞くこと」の内容まで含めて考えれば、学習指導要領で示されている国語力の範囲を大きく外れるものではない。

つまり、「読むこと」の学習に「書くこと」や「話すこと・聞くこと」の学習を関わらせていくことで、既存の授業の枠組みの中でも「PISA型読解力」をつけることは可能だと

考えられる。

では、今の子どもたちに不足しているのは何か。それは、次の二つの力である。

- ① 図・表・グラフなどから情報を読み取る力
- ② 集めた情報について、それまでの自己の生活経験や、他から得られた情報などを総合して、その上に自分の考えを構築する力

つまり、情報を収集し、「網の目」のように関連づけるための力を育てる学習が必要なのである。

2 「非連続型テキスト」はなぜ読めないのか

このうち、従来の「読解力」の空白域として指摘されているのが、図・表・グラフなど「非連続型テキスト」を読み取る力である。

もちろん国語の教材にも、図・表やグラフ・挿絵などの「非連続型テキスト」を含むものは多い。国語に限らず教科書のビジュアル化は著しく、ページを繰れば、カラフルな挿絵や写真、図・表などが次々と目に飛び込んでくる。

だが、それらはあくまでも本文テキストを補助するためのものであって、それ自体を読み取るために存在するわけではない。社会科や理科などでは当たり前に取り扱われる図・表・グラフだが、複数のグラフや写真・図・表などと合わせて考えを導き出したり、他教科と意識的に関連づけて考えたりする機会は少ない。

つまり、子どもたちは多くの「非連続型テキスト」に囲まれながら、それを生かすための学習は行っていないということだ

4 単元「人と『もの』とのつき合い方」（五年）の実践

——資料を読み、資料をもとに考える

「人と『もの』とのつき合い方」は、環境問題を題材にした説明的文章『ごみ問題ってなあに』を読み、そこで得た視点をもとに調べ学習を進める単元である。ごみについては四年生でも学習している上、総合的な学習の時間との関連性も高く、協力的な学習が進めやすい構成となっている。

ここでは、「ごみ問題」について、「連続型テキスト」である教科書本文に関連した、複数の「非連続型テキスト」を新たに提示し、そこからの情報の取り出しと解釈を通して、

- 自分なりの課題を見つける。
- 自ら解決の方法を探る。

○自分の言葉でその考えを表現する。

という「熟考・評価」に繋がる活動を行う。

①『ごみ問題ってなあに』を読み、「へえー。」と思ったことをノートにまとめ、発表させる。

- ・江戸時代はごみを出さない社会だったということ
- ・ペットボトルを魚とりのうきに使っていること
- ・日本人が一人あたり一年で三六〇キログラム以上ごみを出していること……などと記入していた。

②「一人一日一キロ」というのがどのくらいの量か、実際にごみを一キログラム袋に入れたものを示し、順に持たせて実感させる。

・「重い。」「そんなに重くない。」「ばく、一日にこんなにごみ出してないよ。」などの感想が聞かれた。

ある。こうした実情を考えると、「非連続型テキスト」を読めないのは当たり前と言えるかもしれない。

現在の枠組みの中で「非連続型テキスト」にかかる読解力を育成するためには、教科を横断した学習を視野に入れ、国語と他教科の学習との協力の中で、不十分な部分を補いながら行っていくのが適切だと言えるだろう。

3 「熟考・評価」の力を育てるために

他教科との協力は、教科担任制という制約もあることから、一般的に中学校で行うのは難しい。「非連続型テキスト」を読み解く力を育てるための学習は、必然的に、小学校で積極的に行われるべきだということになる。

ただし、高学年の児童にとっても「熟考・評価」のハードルは高い。児童が行う調べ学習の成果は、インターネットや書籍から収集した情報の羅列になりやすく、考察も限りなく感想に近いものになりがちである。ただ、それは知識や生活経験が乏しく、収集した情報を関連づけたり再構成したりする力がまだ足りないからにすぎない。

したがって、将来的に「熟考・評価」の力を身につけていくためには、「情報をネットワークさせる力」を育てるためのトレーニングが必要だと考える。

そこで、国語と総合的な学習の時間との協力を視野に入れて、「非連続型テキスト」を読み解くためのトレーニングになるような学習について考えてみたい。

